話題　其の２１：**パレスチナ問題、私の身近な出来事**

ここ数日間、イスラエルによるアラファト議長の監禁及び、パレスチナ解放自治区への侵攻が深刻な中東紛争ニュースとして報道されていますね。

今回は、その紛争が私のヨルダン生活に影響している状況をお知らせします。

職場では：

「国連パレスチナ難民救済機関」という私の勤務する職場では、表面上大きな騒ぎはありません。あえて動きがあったと言えば、２００名以上が勤務する教育局スタッフのうち１９０名ほどが４月１日の 11:00～12:00 に１時間の座り込み抗議集会を開きました。欠席したのは出張中の人たちだけだったように思われます。私は、たまたま同じ敷地内にある、職業訓練センターへの業務で不在しており、抗議集会の様子は報告できません。

一方、職業訓練センターでは、早朝から学生デモが発生したのですが、警官隊が出動して、大きな問題もなく解散したそうです。私がセンターに行った日は既に３回目のデモで、３日間も訓練が出来ないで、校長先生が「頭が痛い」と嘆いていました。

町の様子は：

ヨルダン人口の 70%以上を占めるだろうと言われるパレスチナ人が生活するヨルダン。

ガザやヨルダン川西岸というイスラエル国内のパレスチナ人居留地では、毎日のように、彼等の遠い親戚や友人達が、イスラエルの戦火による犠牲者を出しています。

ヨルダン国内には、１３カ所のパレスチナ難民キャンプがあります。キャンプと言っても、アフガニスタンの難民キャンプの様なテント暮らしではありません。

外から観れば、一般住宅地域もキャンプも同じような風景です。それは、初めて難民が出てから、既に５３年が経過している事と、ヨルダン政府の難民への理解だと思われます。

これらのキャンプでは、住民による「同胞支援、イスラエルのパレスチナ自治区からの早期撤退」を呼びかけるデモが活発化しています。一部のキャンプでは、警官隊への投石等緊張感が高まっているようですが、ヨルダン政府による報道規制のため、情報不足です。

今日（４月５日）は、金曜日でイスラム教にとってはお祈りの日です。

我が家から見下ろすことの出来るモスク（直線距離で 200mほど）にも、午後１２時過ぎには、大勢の人たちが集まりました。お祈りが終了した頃、窓を閉め切った室内にも届くような集団の喚声が聞こえてきました。双眼鏡で覗くと、警棒を振りかざして大衆を追いかける１０数名の警官達が見えました。モスクの近くには中型バス２台で出動した警官隊が待機しています。

いつこの緊張感が治まるのか？　暫く窓から近所の様子を観察していると、その判断をするには絶好の風景に気が付きました。私と同じように、町の様子を見守る人たちが、ビル（殆どが３～５階建て）のテラスや、屋上から事の成り行きを見守っています。

その人達の姿が見えなくなったらひとまず騒動の終わりです。

さて、職場は「誰と無く騒動を起こす可能性を秘めているパレスチナ人の集団」で、自宅は、デモ行進の最終目標の１つであるイスラエル大使館のすぐ近所（約 150m）です。どちらも、事件を起こせば、国際問題に拡大する恐れがあるために、ヨルダン政府も特別に監視している様子が伺えます。パレスチナ人である我が家の大家さん曰く「久米は２４時間警備付きだから心配するな」と妙に自信を持って言うのですが・・・。

多くの問題を抱えて進行するこの紛争の結末は如何に？　たまたまここに居合わせたのも何かの縁でしょう。じっくり腰を据えて歴史の展開を見守る事にします。

**********

執筆及び編集：久米　篤憲